

北海道実業団バスケットボール連盟
北海道ブロック長 殿

名前 櫻庭 康祐

大会参加 報告書

大会名	第 46 回全国実業団バスケットボール選手権大会				
会場名	東京体育館・代々木第二体育館				
参加期間	平成 26 年 2 月 8 日～2 月 11 日				
第 1 ゲーム	男子予選リーグ				
組合せ	北陸電力石川（北陸 1 位）	V	S	黒田電気（大阪 1 位）	
アドバイザー	岩田友幸（本部・日 A）	主審	櫻庭康祐（北海道・日 B）	副審	赤沼裕紀（東京・日 B）
アドバイス・感想	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 1period ball side の 2on2 → それに関わらない 1n1 で見えないケースがあり、相手審判に助けられてから判定に迷いが出る。普段判定している手の foul を何回か吹くが、結果的に自分の中で探ってしまった。そこから立て直しを図るが未確認でトラベリングを吹いたりゲームにマッチしない判定が出てくる。 ➤ ゲーム自体は、力の差があり特に問題になることはなかったが、自分を出せなかったことが一番の反省として残る。やはり、“いつも通り”をどのようにするかが課題に思う。慣れも必要だと感じ、さらなる経験を積んでいきたい。 ➤ 講評では、やはり未確認での判定がある。それをどのように確認して判定するかが課題で、特にトラベリングについては研究が必要だとアドバイスをいただいた。年齢的にもまだ 30 代ということもあり、若さを出してもいいと思う。 ➤ 布川氏（東京・元国際）にもアドバイスをいただき、2 年前に稚内で行われた北海道実業団の審判研修会で見ていただいた時よりは成長しているといただいたが、前述しているとおりの、トラベリングの判定について研究が必要。判定する材料が全て見える位置を意識・研究してほしいとのこと。 ➤ 全国大会の主審ということで、次回もチャンスがあれば今回以上に自分の仕事をしていきたい。 				

第 2 ゲーム 女子予選リーグ					
組合せ	OTC きくや (近畿 4 位)		V S	メディセオ (関東 3 位)	
アドバイザー	今野慶子 (東京・日 A)	主審	櫻庭康祐 (北海道・日 B)	副審	矢口弘幸 (山形・日 B)
アドバイス・感想	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 前日の反省もあり、“確認”作業の丁寧を心掛けてゲームに挑んだ。 ➤ 女子のゲームということもあり、平面での動きが早く、さらにスクリーンプレイやポジション取りの回数が男子に比べ多く、北海道ではあまり経験しない感覚だった。しかしながら、序盤にイリーガルスクリーンの判定をすることにより、難しいスクリーンプレイはなくなり管理しやすくなったことは、普段行っている自分の判定が選手に伝わったこととして自信になった。 ➤ お互いのチームが、ポストプレイからのアタックを仕掛ける中で、ポジション取りについては、大人だからと普段の基準より甘くなってしまう、普段通りの基準が良かったと感じた。 ➤ ゲームは接戦が続き、残り数行でメディセオがショットを決め勝利するという、大変おもしろいゲームになった。雰囲気やプレイの質については、やはり北海道では経験できないもので、ぜひまたこの経験をしてみたい。 ➤ 講評は、トラベリングの判定につながっている原因は foul が起こって、その現象になっている。そういった細かな部分も判定していくことで、一つ上のライセンスになると思う。 ➤ 偶然にも檜原氏 (福岡・元国際) が見ておられ、山崎ブロック長の紹介でアドバイスを受ける。 ➤ 審判としての取り組み方や姿はとても良い。ただ、バスケットボールの理解とメンタルの強化が必要だとお話いただいた。具体的には、その状態でリバウンドに飛んだらどうなるか？DF が向かった方向で何が起きるか？など、バスケットとして何がどのように起こるかを勉強しなさい。どこから向かって、どのように走って、どのように飛んだなど、そういう見方をしなさいとアドバイスを受けた。 ➤ 一番、自分のバスケットへの視点が違うと感じたのは、檜原氏から「あのタイミングでのイリーガルスクリーンの call は良かったよ。あれより遅かったら ball が簡単に入ってしまふからね。」と、私の中では ball が入るのではなく、ディフェンスのその行為だけがイリーガルという判定をしている。その先には、DF チームが不利になるという結末が見えていなかった。そこが大きな違いだと感じた。まさにそれがバスケットで、バスケットを見ていない自分に気づかされた。 				
総括	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 全国大会の主審を経験し、できたこと、できなかったことを経験した。また、他の北海道からの派遣は 3 日目の割当を獲得し、私は 3 日目に進むことが出来なかった。ただ、この経験があったからこそ、今の自分よりも成長できたとなるように、良い経験として今後につなげたい。 				

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">➤ 檜原氏よりいただいたアドバイスは、本当に今の自分に足りないことで、解決のヒントをいただいたことは一番の収穫だと思う。時間はかかるかもしれないが、やるべきことが見えたと思う。➤ 最後に、このような機会を与えていただいた関係者の皆さまをはじめ、大会中にアドバイスをいただいた皆さま、大会運営に従事された方には本当に感謝申し上げます。来年は地元北海道ということも、責任の重さと自分の目標を持ち、全国の仲間を迎える準備をしていきたいと思えます。ありがとうございました。 |
|---|

以上